

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社あじさい		
事業所名	グループホームあじさい ユニット1		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筥瀬778番地3		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果市町村受理日	令和6年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和5年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれたこの地域で、理念に掲げているように家庭的な雰囲気の中で、利用者様が「自由に楽しく、笑顔で」をモットーに、お元気で長生きして頂けるようなグループホームづくりを目指していきます。コロナ感染に十分注意を払いながら、地域の方々との交流に一步踏み出したいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は自然豊かな環境で、法人内の医療、福祉施設が隣接しており、隣のパン工房や食事処など住民の往来も多く利便地である。また近くにある遊歩道は利用者職員との気分転換の一助となっている。理念の地域に密着し安心した生活、開かれた運営は、ケア理念の「自由で楽しく笑顔で」の基礎となり、本人の思いに寄り添った自由な暮らしに連動している。職員の笑顔での支援は、入居者の穏やかな表情に繋がり、自由で楽しい雰囲気が窺える。菜園で苗から育てる野菜の栽培は、入居者の張り合いであり食する楽しみも大きい。コロナ禍で運営推進会議は書面会議であるが、委員から意見や励ましの書面が多数届いている。また対面での会議も1度開催し、多方面からの意見を運営に活かしている。窓からは開放感のある山や緑の景色、車の往来、児童の登下校の様子も見え、馴染みの地域でその人らしい暮らしができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務表に掲げると共に事業所内に掲示し、朝の申し送りの際には唱和を行い理念共有に努めている。	事業所内の目に付く場所に、理念とケア理念を掲示しており、毎朝の申し送り時に唱和し、確認を行っている。事務所内にも「認知症の方への接し方」と共に掲示があり、管理者と職員は常に意識しながら、ケア理念の「自由で楽しく笑顔で」を目標に、本人の思いに寄り添った無理強いしないケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町民文化祭への出展をしたり、おくんちに参加し見学したりした。本年4月の運営推進会議を対面で開催でき、日常的交流には至っていない。	町民文化祭の話し合いや準備など職員が参加し、地元のおくんちには事業所前で見学するなど、地域との繋がりを大切にしている。コロナ収束後は、以前の通り職場体験などの受入れを再開予定である。毎月、市の巡回図書館の利用もあり、隣接するパン工房や法人内の医療、福祉施設と共に地域に密着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の老人会の方や民生員の方等に運営推進として参加して頂いた。その中で認知症についての症状、支援等について若干説明を行う事ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催では活動状況報告書に対して意見書を頂きサービス向上に活かしている。対面開催ではより具体的に意見交換を行う事ができ、サービス向上に活かしている。	会議は、2ヶ月毎に開催し、地区長、老人会長、民生委員、警察官ほか規定の参加者がある。書面会議では、各委員から多くの意見や激励が届いている。今年度は、対面での開催もあり、貴重な意見や要望などサービス向上に活かしている。ただし、家族へ会議の開催は伝えているが、内容についての報告はこれからである。	運営推進会議は、事業所の取り組みや課題を話し合い、家族や地域の理解と支援を得るための貴重な機会であるため、会議内容の要点などを家族にも、知らせる工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が多く利用されていることもあり、市町村担当者と連絡を取ることが多く、困った時や分からない時長寿社会課に相談することも多々ある。	介護保険の申請や更新等は支所に出向き、市との連絡は主にメールやFAXである。必要時には電話や本庁に出向き、相談することもある。市からの研修案内は、リモートで参加している。また、担当職員の定期的な訪問もあり、相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除については3ヶ月1回のめどで委員会開催し指針の確認を行っている。職員の理解はできていると思われる。日頃より拘束にならないようにケアに努めている。	身体的拘束等の適正化のための指針を整備し、3ヶ月毎に対策委員会を開催している。定期的に研修を行い、語調や言葉による制止などにも気をつけている。帰宅願望のある利用者には、散歩やドライブで気分転換を図り、日中は玄関の施錠も無く、拘束の無いケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を設けている。職員の言動については声を掛け合い、意識しながら対応するようにし、お互いが注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度は内部学習会で若干学習した。実際に成年後見制度の利用になられた入居者がいるため管理者が学習した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書を基に十分な説明を行うことを心掛けている。変更時も文書にて理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、運営方針等も掲示している。また出来る限りご家族と話す機会を増やすように努めているが1名家族が施設からの連絡を拒否される。	毎月のホーム便りを家族に郵送しており、利用者の様子、写真を掲載し行事や予定など把握できると、家族の安心に繋がっている。管理者と職員は、家族の訪問時や電話で直接に話す機会を増やし、本人、家族の要望等を聞き、運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月行っており管理者は毎回参加、代表も可能な範囲で参加している。	毎月のユニット会議では、ケアの検討、行事、研修会報告、業務確認など行い、職員が意見や提案を出し合う場となっている。日常業務の提案など多く、職員のチームワークも良好で、研修参加や希望休、シフトの変更などについても配慮し、働きやすい職場環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定表、実績表により把握してもらっている。実践時の悩みや苦労についての相談にも応じてもらい、職場環境の整備に努めてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加を積極的に勧めてもらっている。また管理者と常日頃から連携して現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており研修会に積極的に参加しており、その他のネットワークにも出来る限り参加してサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の面接時にご本人の話を傾聴し、思いに寄り添うように努めている。表情や声のトーン、解り易い言葉使いで不安な気持ちに配慮するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをまず傾聴することを基本とし、当グループホームについての説明を充分に行うようにしている。気軽に相談して頂ける様、雰囲気作りにも配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応で本人・家族にとって最善の支援になるように心掛けている。さまざまな選択肢があることや柔軟な姿勢で対応できることを理解していただけるように説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状態にある利用者様の思いや行動を理解しながら、職員も同じ暮らしの一員として家庭的な雰囲気作りを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に安心して頂ける様、定期的にあじさい便りを送付している。またご家族の想いに寄り添えるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類になった時点で面会・外出を、基本的な感染対策を継続しながらも、大幅に緩和し家族、馴染みの交流を深めて頂いている。	職員は入所者台帳により、生活歴や馴染みの人や場所などを共有しており、新たな情報は追記している。現在、家族や知人、友人の訪問時は、玄関内に椅子を置き、窓を開け面会でできている。また家族との病院受診や電話での会話など、馴染みの関係が途切れないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルや孤立がないように座席を工夫したり、本人が好きなレクを提供することによって皆さんがリビングで楽しく過ごされるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも相談や支援ができるような人間関係を構築するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを表出できるような雰囲気作りを行い、困難な場合は本人の想いを少しでも分かるように努めている。	職員は、以前からの情報で生活歴や習慣を把握しており、日常会話から得た情報は、本人の言葉をそのまま、申し送りや個人記録に記し共有している。笑顔での声掛けで、利用者が思いや意向を表出しやすいよう努めている。表出が難しい場合は、担当職員と話し合いながら、本人に寄り添い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には可能な限り事前訪問を行うようにしている。ご本人及びご家族からの聞き取りや、文書からの情報を収集し、状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	得られた情報を記録に記載し、伝達ノート、申し送り時、ミーティングなどで情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人及びご家族からの希望や意向を聴きとり、担当者会議で公表し意見交換後に計画を作成している。毎月のミーティングでは担当者による実施確認や評価を行っている。	長期1年短期6ヶ月のケアプランを作成している。職員はケアプラン実践表、カンファレンスやモニタリング・評価にて、ケアの在り方について確認している。更新時、家族へ意向確認の連絡を取り、利用者本人の同意を得て実施している。ただし、ケアプラン更新後、家族への共有が口頭が主となっている。	現在、更新後のケアプランについて、家族とは電話や口頭での共有が主となっているが、文章等で確認できる仕組みが、共通理解しやすく望まれる。取組に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には事実やご利用者が発言した言葉を出来るだけ記録に残し、実践した内容が具体的にわかるようにしている。また毎日のミニカンファレンスで問題がある場合は検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の申し送り後にミニカンファレンスを行い、柔軟な対応ができるようにスタッフからの意見を取り入れ、実践内容を確認している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会や外出はできり限り家族や知人の意向を重視している。また電話など自由にご希望に応じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかり医への受診は本人家族の意向を最優先にしている。。またご家族への連絡も密に行っている。かかり医、本人、ご家族との関係が良好に築けるようにしている。	本人・家族の意向を優先し、病院受診を支援している。病院受診は職員が同行し、遠方や病状によっては、家族の協力を得ている。職員は、受診内容を受診ノートに記録し、職員間で情報を共有するとともに家族に報告している。夜間や緊急時は、適切な医療を受けられるよう、協力医療機関や看護師への相談体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診や看護が受けられるように、看護職者に対し正確な情報を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供を行い、病院関係者とのコミュニケーションにも努めている。ご家族も含め定期的に状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「終末期のありかた」についてご本人が判断できない場合は病状の説明を医師より説明後ご家族に判断して頂いている。状態に変化があった際は密に連絡し、方向性を共有するようにしている。	事業所では、看取り支援の事例がある。契約時、重度化及び看取りに関する指針を説明し同意を得ている。医師による家族への説明後、状況変化に応じて、家族の意向を確認している。職員に向けて、事業所における看取りの方針やケア内容について共有し、研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、日頃よりシュミレーションし、話題にしている。最悪の場合に備え実践力が身につくよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回、近隣施設との合同訓練を行っている。緊急時の連絡網は定期的に更新している。地域の方の協力体制は築くことは出来ていない。火災を未然に防ぐための対策としては日中、夜間帯での自主検査チェックを行っている。	事業所はハザードマップをもとに、大雨の避難訓練も行っている。備蓄・持出備品も準備しており、緊急時は隣接する系列施設との連携し、安全対策を講じている。年2回、系列施設が中心となり、消防訓練を実施しているものの、全職員の参加に至っていない。また、避難確認の仕組み、実践的な避難訓練なども今後の課題である。	全職員が訓練に参加するために、訓練の規模にとらわれず、自主訓練を含めた避難災害訓練の企画、また火災時に想定される障害や避難確認方法について、実践的な訓練実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいは敬語、丁寧語にて対応し、個別的に支援することを目標にしている。またトイレ使用時は必ずドアを閉めている。誇りやプライバシーを傷つけないように努めている。	職員は、事業所のケア理念を基礎とし、利用者の尊厳を大切にされたケアを実践しており、一人ひとりの目線に合わせ、家庭的な口調で語り掛けている。利用者が失敗をした場合、さりげなく寄り添いながらケアを行っている。書面は適切に保管し、写真や個人情報に関する同意書もある。職員に向けて、守秘義務の周知徹底も図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が判断したり決定できるような言葉かけの工夫を行い、自己決定ができることを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や体調、気分配慮しながら希望を聴いて対応している。音楽鑑賞、ぬり絵、パズルなどの個人レクも大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時には季節に応じた服を着用して頂けるように選んでいる。自分で服を選んでいる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑には季節の野菜を種や苗から育てていて、できた野菜の収穫は利用者と一緒に収穫し、献立に取り入れている。食事は職員が行うが、下膳後のテーブル拭きは利用者によって手伝わってもらっている。	主菜は法人系列の施設に外部委託しており、利用者の好みの献立や味付けで調理している。盛付は各ユニットの利用者の嚙下に合わせ、手を加えたり、事業所の菜園で収穫した野菜を副菜や汁物の具材に用いるなど、家庭的な雰囲気を楽しんでいる。年1回外食に出掛けたり、行事や誕生日など、食事を楽しむ工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は個別に記録している。必要時は捕食、補水を行い健康管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は歯磨きをしてもらっている。自分で出来ない利用者に対しては口腔ケアを準備しセッティング、片付けの支援介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄ができるようにしている。意思表示が困難な利用者に対しては時間誘導を行い失敗の体験を少なくできるようにしている。日中はリハビリパンツを使用してもらい、仮に失敗があっても速やかに処理し自尊心が傷つかないよう配慮している。	職員は排泄チェック表に、排泄支援の状況を記録している。利用者が快適に過ごせるように、支援内容を検討している。異性介助や排泄失敗など、羞恥心に配慮し、さり気ない支援を行っている。時間帯や体調に合わせ、ポータブルトイレやパッドサイズを検討し、座位を確保した排泄ができるよう支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やジュースを取り入れ、水分摂取量をチェックしている。体操や歩行運動にも参加していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全介助または見守りの必要な利用者が殆どで安全を優先するために、入浴日を決め利用者に協力していただいている。入浴時にはできるだけリラックスできるようゆったりとした時間が確保できるようにしている。	週3回の入浴日を設けている。利用者の意向を汲みながら、入浴拒否時は無理強いせず、順番を変えたりしながら対応している。シャワー浴や浴槽に浸かるなど、利用者の習慣に合わせた介助を行っている。入浴時間は、好みの湯温に合わせ、心地よい環境を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室ではいつでも自由に休むことができ、リビングではテーブル席、畳、ソファで気分に合わせて休める様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個別にファイルし、用法、用量はいつでも目にする事が出来る様にしている。変更があった場合は申し送りや伝達ノートを活用し情報の共有ができるようにしている。薬には名前・日付を記載し、与薬責任(勤務帯)の所在を明確にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割や楽しみを実感してもらえよう、洗濯物たたみやちり紙折り、ゴミ箱作り、モップかけ等を体調や気分に応じ手伝ってもらっている。新聞やテレビは自由に観れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつタイム時、天気の良い日は玄関先やベランダに出るようにしている。時々職員運転でドライブに行くこともある。	事業所周辺や敷地内の散歩やベランダで外気浴などの支援を行っている。ごみ出しや隣接する店にパンを買いに出掛ける等、気分転換や意向に応じて外出支援している。個別のドライブにも出掛けている。花見や外食など、複数名での外出もあり、入所者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持はトラブルの原因となる可能性があるためほとんどの方の金銭は管理者が管理をさせてもらっているが何人かは少額居室に保管されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応が出来る様にしている。必要時、ご家族の協力で電話を入れてもらい安心につなげる機会とする場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁やホワイトボードに貼り絵やぬり絵などの作品を掲示している。温湿度計をもとに室温調整に配慮している。観葉植物も置いている。	リビングは陽当たりも良く、ゆっくりと寛げる空間で、換気、掃除、室温も調整され臭気も無い。歌番組の鑑賞、本や新聞購読、パズルや塗り絵など本人が好きなお楽しみが覗ける。玄関やベランダの花、壁の手作り作品で季節感もある。ソファでゆっくり談笑するなど家庭的で、居心地よく過ごせる工夫が見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースのリビングには畳、ソファがあり自由に使える様にしている。座席の配置は趣味の合う方を同じテーブルにするなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物は継続して使用してもらい、写真、誕生会での色紙、各自の作品は目に触れやすい位置に置くようにしている。話題にすると喜ばれている。	自宅から時計や縫いぐるみ、家族の写真や使い慣れた小物や整理タンスなど持参し、壁には毎年の誕生日写真がある。電動ベッドは状態に合わせて使用している。自室がわかりやすいよう、居室入り口に好きな果物の絵と表札を掛けている。換気や掃除のモップ掛け等、出来る利用者は職員と一緒にしており、清潔で寛げる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓を心がけ、動線には障害となる物の排除を心がけている。手すりを設置することで安全に移動できている。必要な方のために居室・トイレ・浴室がわかるように絵や文字の工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社あじさい		
事業所名	グループホームあじさい ユニット2		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筥瀬778番地3		
自己評価作成日	令和5年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和	年	月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれたこの地域で、理念に掲げているように家庭的な雰囲気の中で、利用者様が「自由に楽しく、笑顔で」生活され、一人でも多くご家族や地域の方が、いつでも気軽に訪問して頂けるようなグループホームづくりを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務表に掲げると共に事業所内に掲示し、朝の申し送りの際には唱和を行い理念共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町民文化祭への出展をしたり、おくんちに参加し見学したりした。本年4月の運営推進会議を対面で開催できた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の老人会の方や民生員の方等に運営推進として参加して頂いた。その中で認知症についての症状、支援等について若干説明を行う事ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催では活動状況報告書を見て頂き意見者を返送して頂いている。対面開催ではより具体的に意見交換を行い、サービス向上に活かせると思える。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が多く利用されていることもあり、市町村担当者や連絡を取ることが多く、長寿社会課に相談することも多々ある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除については3ヶ月1回のめどで委員会開催し指針の確認を行っている。職員の理解はできていると思われる。日頃より拘束にならないようにケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を設けている。職員の言動については声を掛け合い、意識しながら対応するようにし、お互いが注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学ぶ機会はなかったが、実際に成年後見制度の利用になられた入居者がいるため学習した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書を基に十分な説明を行うことを心掛けている。変更時も文書にて理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の注意事項をご家族の目に触れやすい場所に掲示し、誤解のないようその都度説明するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月行っており管理者は毎回参加、代表も可能な範囲で参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定表、実績表により把握してもらっている。実践時の悩みや苦労についての相談にも応じてもらい、職場環境の整備に努めてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加を積極的に勧めてもらっている。また管理者と平日頃から連携して現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており研修会に積極的に参加しており、その他のネットワークにも出来る限り参加してサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の面接時に本人様のお話を傾聴し、思いに寄り添うように努めている。表情や声のトーン、解り易い言葉使いで不安な気持ちに配慮するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをまず傾聴することを基本とし、当グループホームについての説明を充分に行うようにしている。気軽に相談して頂ける様、雰囲気作りにも配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応で本人の・家族にとって最善の支援になるように心掛けている。さまざまな選択肢があることや柔軟な姿勢で対応できることを理解していただけるように説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状態にある利用者様の思いや行動を理解しながら、職員も同じ暮らしの一員として家庭的な雰囲気作りを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に安心して頂ける様、定期的にあじさい便りを送付している。またご家族の想いに寄り添えるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類になった時点で面会・外出を、基本的な感染対策は継続しながらも、大幅に緩和し家族、馴染みの交流を深めて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルや孤立がないように座席を工夫したり、本人が好きなレクを提供することによって皆さんがリビングで過ごされるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも相談や支援ができるような人間関係を構築するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを表出できるような雰囲気作りを行い、困難な場合は本人の想いを少しでも分かるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には可能な限り事前訪問を行うようにしている。ご本人及びご家族からの聞き取りや、文書からの情報を収集し、状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	得られた情報を記録に記載し、伝達ノート、申し送り時、ミーティングなどで情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人及びご家族からの希望や意向を聴き取り、担当者会議で公表し意見交換後に計画を作成している。毎月のミーティングでは担当者による実施確認や評価を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には事実やご利用者が発言した言葉を出来るだけ記録に残し、実践した内容が具体的にわかるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の申し送り後にミニカンファレンスを行い、柔軟な対応ができるようにスタッフからの意見を取り入れ、実践内容を確認している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身近に散歩コースがあり天気の良い日は散歩や花見に行ったりした。巡回図書の利用している。近くのパン工房に買い物に行ったりする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかり医への受診の際は日頃の健康状態を正確に伝えることで適切な医療を受けられるようにしている。またご家族への連絡も密に行っている。かかり医、本人、ご家族との関係が良好に築けるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診や看護が受けられるように、看護職者に対し正確な情報を伝えるようにしている。日頃より健康に関する知識や技術への向上については各自が研鑽するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供を行い、病院関係者とのコミュニケーションにも努めている。ご家族も含め定期的に状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「終末期のありかた」についてご本人が判断できない場合は病状の説明を医師より説明後ご家族に判断して頂いている。状態に変化があった際は密に連絡し、方向性を共有するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、日頃よりシュミレーションし、話題にしている。最悪の場合に備え実践力が身につくよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回、近隣施設との合同訓練を行っている。緊急時の連絡網は定期的に更新している。地域の方の協力体制は築くことは出来ていない。火災を未然に防ぐための対策としては日中、夜間帯での自主検査チェックを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいは敬語、丁寧語にて対応し、個別的に支援することを目標にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が判断したり決定できるような言葉かけの工夫を行い、自己決定ができることを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や体調、気分配慮しながら希望を聴いて対応している。音楽鑑賞、ぬり絵、パズルなどの個人レクも大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時には季節に応じた服を着用して頂けるように選んでいる。自分で服を選んでいる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑には季節の野菜を種や苗から育てていて、できた野菜の収穫は利用者と一緒に献立に取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、季節の野菜を取り入れた食材で配膳している。食事、水分量は個別に記録している。必要時は捕食、補水を行い健康管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は歯磨きをしてもらっている。自分では出来ない利用者に対しては口腔ケアを準備しセッティング、片付けの支援介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄ができるようにしている。意思表示が困難な利用者に対しては時間誘導を行い失敗の体験を少なくできるようにしている。日中はリハビリパンツを使用してもらい、仮に失敗があっても速やかに処理し自尊心が傷つかないように配慮して		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やジュースを取り入れ、水分摂取量をチェックしている。体操や歩行運動にも参加していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全介助または見守りの必要な利用者が殆どで安全を優先するために、入浴日を決め利用者に協力していただいている。入浴時にはできるだけリラックスできるようゆったりとした時間が確保できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室ではいつでも自由に休むことができ、リビングではテーブル席、畳、ソファで気分に合わせて休める様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個別にファイルし、用法、用量はいつでも目にする事が出来る様にしている。変更があった場合は申し送りや伝達ノートを活用し情報の共有ができるようにしている。薬には名前・日付を記載し、与薬責任(勤務帯)の所在を明確にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割や楽しみを実感してもらえるよう、洗濯物たたみやちり紙折り、ゴミ箱作り、モップかけ等を体調や気分に応じ手伝ってもらっている。新聞やテレビは自由に観れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつタイム時、天気の良い日は玄関先やベランダに出るようにしている。時々職員運転でドライブに行くこともある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持はトラブルの原因となる可能性があるためほとんどの方の金銭は管理者が管理をさせてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応が出来る様にしている。必要時、ご家族の協力で電話を入れてもらい安心につなげる機会とする場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁やホワイトボードに貼り絵やぬり絵などの作品を掲示している。温湿度計をもとに室温調整に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースのリビングには畳、ソファがあり自由に使える様にしている。座席の配置はお喋りが出来る方を同じテーブルにするなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物は継続して使用してもらい、本人様が大切にしている衣服や置物を居室に配置するように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓を心がけ、動線には障害となる物の排除を心がけている。手すりを設置することで安全に移動できている。必要な方のために居室・トイレ・浴室がわかるように絵や文字の工夫をしている。		